

インターネット公開許諾のない文章には
墨消し処理をしています。

随想

スイスにおける念仏談義

藤 吉 慈 海

チロールの雪景色も、ミュルツワルトの森も、ラインの流れも
思い出すだに私を再び夢幻の境にひき入れてくれる。五月から六月
にかけてヨーロッパの旅は、何といつても実にすばらしい。一昨年
の春は私の生涯のうちで最もたのしかったひと時であつた。ハイデ
ッガーやユング等当代随一の碩学と親しく対面することができたの
も、お供をした久松抱石先生のお徳のしからしめるところである
が、今思い出しても胸のたかなりを覚える。デンマークからスエー
デン・ノールウェーの旅を終えて、再びベルリンからスイスに入つ
たわれわれは、ローザンヌでフルシチヨフ・シユオン師のお宅に二
晩泊ることになった。

シユオン師はまだ五〇才前後の紳士であるが、回教の神秘主義ス
ーフィーの一派の伝灯をつぐ人で、かなりの信者をもっている。ス
イスでは人目をさけて外出の時は普通の服装をしているが、家の中
では回教徒の服をまといつていて、簡素な生活のなかに、深い宗教的
体験を持つているように感ぜられた。神々しいまでに美しい奥様の
通訳で対談したところによると、彼は既にわが「英訳法然上人伝」

随想

を読んでおり、法然上人の教義、特に称名念仏について可なりつつ
こんだ質問をするのであつた。彼自身もまたアラアの神の名を称
え、そのことによつて宗教的体験を深かめることができるという。
実際に夕方の宗教行事に参加してみると、メツカの方に向つて礼拝
した後、信者たちと共にコーランを読み、声をそろえてアッラー
~~~~と称名するのであつた。十分あまりも称名が続くと、又し  
ばらく誦経があり行事は終つた。あとで、その内容を訊ねると、は  
じめに自己の罪けがれを懺悔し、アラアの神に向つて礼拝し、それ  
からアラアの神の徳を讃歎し、その名前を称え、称名のうちにアラ  
アの神と自己とが一つになると教えてくれた。一つになるといつて  
も、全く一体となつて、その一体となつた自己が現実社会におい  
て、アラアの神としての働きをするかと訊ねると、そこはノーとい  
う返事であつた。アラアに近づくことはあつても全く一体となる  
ことはない。ましてや一体となつた自己が還相的働きをするかどう  
かについては明確でないのみならず、むしろ消極的返事であつた。  
それにしても風光明媚のローザンヌで、回教の人とわが法然上人に  
ついて語ることがあろうとは、夢にも思わぬことだつただけに、い  
までもその夜の印象がまざまざと蘇つて無限の懐かしさを覚えしめ  
る。

(講師)